



金玉集

印

特 別
~4
8141
2



八4 貴
8141
2

麗城書院藏
大正五年七月中旬



金玉集中



中ノ二

日神月神ひのかみつきのかみより素歩すあゆ鳥とり言ことたるとりて
 一ひと生なまなりしとていこの言ことも思おもふ神かみより
 志のちこひし神かみは日神ひのかみ月神つきのかみの神かみなり
 心こころはるるそ鬼おになりとて言ことなり
 けり
 〇いこの言ことは神かみの言ことなりとて出でる言ことは國くに
 一ひとまつたるといこの言ことは神かみの言ことなりとて
 乃すなはち言ことは國くになりとて輪りん圓えんなりとて

流りんとてまじくしらむ流りくらけはま
一浪座あつらひしつとらり
○なほ一浪のそりくはなほまじくくらけはま
しめふ浪中まじりけり成り流りあつらひの
流りくらけはまなほまじりて流りくらけはま
けりまじり流りくらけはまなほまじりくらけはま
由ふまじりくらけはまなほまじりくらけはま
しめふ浪中まじりけり成り流りあつらひの
流りくらけはまなほまじりて流りくらけはま

いさくらくはまなほまじりくらけはま
流りくらけはまなほまじりくらけはま
りまじりくらけはまなほまじりくらけはま
八つまじりくらけはまなほまじりくらけはま
わしめふ浪中まじりけり成り流りあつらひの
亦一浪のそりくはなほまじりくらけはま
は流りくらけはまなほまじりくらけはま
りまじりくらけはまなほまじりくらけはま

籠月夜

夕月

暁月影

秋の月

産月影

夕山本

う紀祿の床

あろり空

萩の風

喜山さ

松の雪

雪洞窓

かゞぞ

世捨人

奥山す

まゝの好景よすは橋のしるは萩
あまらなるはしるは萩のしるは

あまらなるはしるは萩のしるは
あまらなるはしるは萩のしるは
あまらなるはしるは萩のしるは

あまらなるはしるは萩のしるは
あまらなるはしるは萩のしるは
あまらなるはしるは萩のしるは

あまらなるはしるは萩のしるは
あまらなるはしるは萩のしるは
あまらなるはしるは萩のしるは

かゝるはなれりしむらじり
ちかひのちかひ

○今はいかに
君之拙あす

さうりしむらじり
つるむらじり
なり

○つるむらじり
なほなほ
なほなほ

そわいかに
なほなほ
なほなほ

神むらじり
なほなほ

なほなほ
なほなほ

なほなほ
なほなほ


~~~~~  
たつた

ニ

るら

ニ

友

おのつ~~~~~

日

たあ~~~~~

~~~~~

~~~~~

申す

祝

~~~~~

日

~~~~~

~~~~~

~~~~~

音おん首しゆ之の口くち守まもるる海うみのの字じ也なり

何なんぞの和わ歌か~~~~~上かみ舌したハハ一ひと字じ額がく





神樂かぐら

かきくく神うるやん

五七

よのしらけともものまつこか五七一

しんらんあめ

八

鷹持たかぢ

あきこゆりこのこま

五七

お夜のまぬやこいこ

五七

人—がめしと

七

社か 氏ぢ

あしあしと福のねり

ゆりふりるはや社氏の

あし—うらん

善秋同詠二首ぜんあきどうりやうにしゆ

副傳歌ふたつたが 一か  
もい早もいはや

善秋同詠二首ぜんあきどうりやうにしゆ 後行の信長ごぎやうののぶなが 後原の信定ごはらののぶさだ 家上けじやう

曉あけぼの

わろもたなるもさるる白雲乃

たもさるるもさるる

秋意あきごころ

玉珠乃藤くさむら

わさるるもさるる

少袖くさるる母さ

海女歌

浦島太郎うらしまたろう

友名

あきさきさきさき

あきさきさきさき

あきさきさきさき

逢あひふ逢あひふ逢あひ

あきさきさきさき

あきさきさきさき

あきさきさきさき



詠三首和歌

雲

友心

友の秋のけしき行きの雲  
もわらわさびしきあつ  
のたぐち。

友

うらみみの雲花紙しついで  
あつた友の秋わらわさび

秋

詠三首和歌

たを控かおる原定家 浦柳

夕暮ふたふたの

浦とみ海をいふあふ

うらみねさうし

つらみ

八月十六日詠三首和歌

製



檀弓二叔少公亦乃乃垂と水成也 爲

表其首

吉日同咏大上皇他同應

製和歌

秋吹同咏月秋久應

今歌

左字系指其乃乃原定家

三初八文字

右字系指其乃乃原定家

吉日同咏存揚久應

製和歌  
右字系指其乃乃原定家

初春同咏吉坊給應

製和歌  
右一尺一寸  
守

右字系指其乃乃原定家

夏日同咏之首應

製和歌

右一尺一寸  
守

日歌

初秋詠松尾社壇同咏之首

一尺一寸  
守

右字系指其乃乃原定家

初夏同咏度由同咏之首應製

右一尺一寸  
守



たゞし約ふにけり人いふありき

又七

又六

一七

物毎乃席つそり又あてあやめあはれ  
名とくそり連がふありかき懐紙  
一あてあやめそり尋りきとて  
くそりあやめそりあはれ  
但女くそりあはれくそりあはれ

くそりあはれくそりあはれ  
懐紙乃とてくそりあはれ  
と持家もちけ乃あはれ乃とてくそりあはれ  
是とてくそりあはれくそりあはれ  
一抄とてくそりあはれ

ま

うかいもあふあはれあはれ  
くそりあはれくそりあはれ



うくすつぬいじゆら  
 家そふ 花うき 浪う 立  
 洞を神小 石をらう とうま  
 押うま 人よたのじ  
 件乃あふ 志ふ あり  
 かののしきうらふしき

かき夜目あふくあふちうらふにけ

くちうらう人むしりふ  
 水うらうらうのまのしは  
 ③城  
 蘇とそらう 月とそらうよ ねとらう  
 なとらう 馬とそらうん  
 〇あつとむらうわうひまふと  
 人よたのじ かののしき

あつとむらう  
 馬とそらう  
 ねとらう

○うさぎのしるしをみれば

じつじつとていつか

あつたか

○さきさきのうらなひを

みれば

なつかし

春目好ぶわづら子の日は

あかき

○うさぎのしるしをみれば

なつかし

さきさきのうらなひを

みれば

風がゆく 雲のたぐ 風を吹 雲を吹

りまはるがさきさきのうらなひを

みれば

うさぎのしるしをみれば



まゝにわたりてはるかにあはれに  
うらやまを

山ゆりて人なきさうりてはるかにあはれに

都をさうりて

えんむらたむせう

○是るまじき別ちあつらひるふりてはるかにあはれに

さうりてはるかにあはれに

あつらひて今もあつらひてはるかにあはれに  
りてはるかにあはれに

東海乃きの船橋はるかにあはれに  
あつらひてはるかにあはれに

うらやまを

是るまじき別ちあつらひてはるかにあはれに

さうりてはるかにあはれに

あつらひてはるかにあはれに

○是るまじき別ちあつらひてはるかにあはれに

今更に諸行浪に身をまかせん  
願ふはあはれん

○さう海<sup>なみ</sup>の幸<sup>こゝろ</sup>大<sup>たい</sup>喜<sup>ぎ</sup>の事<sup>こと</sup>は  
あけせてぬいぬれぬ  
物とえぬ今<sup>いま</sup>もたえぬ  
玉とてうせぬもあはれぬ  
月とてうせぬ

かたはるもあはれぬ  
件乃知

らききききききききききき  
親為我をきききききききき  
しききききききききききき  
産ききききききききききき  
如ききききききききききき



おちりぶらぶらのついでに  
のちのちのちのちのちのち  
まのちのちのちのちのち  
。のちのちのちのちのち  
あつちのちのちのちのち  
おちりぶらぶらのついでに  
のちのちのちのちのち

おちりぶらぶらのついでに  
のちのちのちのちのちのち  
まのちのちのちのちのち  
。のちのちのちのちのち  
あつちのちのちのちのち  
おちりぶらぶらのついでに  
のちのちのちのちのち

しりあつらひのきよきまをわらふ

子目すらほらふらふら小松原

の代よはらふらふの地わらふん

○まらふらほらふらふらた我を

まらふらほらふらふらた我を

まらふらほらふらふらた我を

まらふらほらふらふらた我を

○まらふらほらふらふらた我を

まらふらほらふらふらた我を

まらふらほらふらふらた我を

まらふらほらふらふらた我を

○まらふらほらふらふらた我を

まらふらほらふらふらた我を

まらふらほらふらふらた我を

まらふらほらふらふらた我を

○かほりたるむらさ

うらわあし  
さかゆか

○かのをふらふ藤ありのんていりていりてい

きり

○うきしききんかきりていふよきん

いんていりていりていりていりていり

いりていりていりていりていり

いりていりていりていりていり

あつ日く〜りき

あつ日く〜りき

あつ日く〜りき

○あつ日く〜りき

あつ日く〜りき

あつ日く〜りき

あつ日く〜りき

あつ日く〜りき

海を渡るもよしとて  
是もついでにたることさきの  
てふもついでにたることさきの  
かきまわり  
又福よからしむる事なれど  
つとふよしとて凡そつとふよしとて  
いふ  
ほろふりそとてかきまわり  
いふ

いふがよしとてつとふよしとて  
たぢぢたぢたぢたぢ  
光えんつらつらつらつらつらつら  
○つぢぢぢぢぢぢぢ  
いぢもかきまわり又つら  
いぢ  
○つらつらつらつらつらつら  
つらつらつらつらつらつら  
つらつらつらつらつらつら

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
ひりひりひりひりひりひりひりひりひり  
てんてんてん

東海舟の波の音をたげし虫紙  
ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

。おんおんおん

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

。おんおんおんおんおんおんおんおんおん

月ふか 花ふか

。おんおんおんおんおんおんおんおんおん

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

かきかきかきかきかきかきかきかきかき

系うらうらうらうらうらうらうらうらうら

はつ國の難波の音をたげし虫紙  
ちりちりちりちりちりちりちりちりちり





世  
甲午  
乙未  
丙申  
丁酉  
戊戌  
己亥  
庚子  
辛丑  
壬寅  
甲午  
乙未  
丙申  
丁酉  
戊戌  
己亥  
庚子  
辛丑  
壬寅

金  
集  
中



